

WARSAW PHILHARMONIC - THE NATIONAL ORCHESTRA OF POLAND

Jacek Kaspszyk, Music & Artistic Director / Tomoharu Ushida, Piano

フルトヴェングラー、ワルター、ラヴェル、ストラヴィン斯基が指揮台に立ち、
ホロヴィツ、ルービンシュタイン、サラサーテらが客演!
まもなく創立120周年を迎えるヨーロッパの名門、ワルシャワ・フィルは、
世界のオーケストラのグローバル化が進む中、ほとんどのメンバーがポーランド人という
現在では珍しい楽員構成を特徴としており、その特有の美しい響きは、
長い歴史と幾多の戦禍をくぐり抜けながら今も厳然と受け継がれ続けています。
今回の札幌公演では、驚異のデビューから5年、さらなる高みへと飛翔する
スーパーピアニスト牛田智大を迎えて、新年に相応しい名曲をお贈りします。



ヤツエク・カスプチェック (音楽監督・指揮) Jacek Kaspszyk, Music & Artistic Director

ヤツエク・カスプチェックは、2013年9月1日、ワルシャワ・フィルハーモニーの音楽芸術監督に就任した。

1975年、ワルシャワで指揮、音楽理論、作曲を専攻して卒業。1977年ベルリンのカラヤン指揮者コンクールで3位となり、1978年のベルリンとニューヨーク・フィルのデビューにつながった。1982年以降、フィルハーモニア管弦楽団、ヨーロッパ室内管弦楽団と共に演奏し、ロンドン交響楽団、ロンドン・フィルにも客演した。その後、米国(シンシナティ響)、カナダ(カルガリー・フィル、ウニペグ響)、日本(読売日響、東京フィル)、香港フィル、ニュージーランド響も指揮している。

カスプチェックは祖国ポーランドでも数多くの要職を歴任してきた。主なものとしては、ポーランド国立放送交響楽団の音楽監督、NFMワロツツワフ・フィルハーモニー管弦楽団の芸術監督などがある。ポーランド国立歌劇場の芸術・音楽監督の在任中には、同歌劇場を率いて北京音楽祭、モスクワのボリショイ劇場、ロンドンのサドラー・ズウェルズ劇場、香港芸術祭に出演し、さらに3回にわたる日本ツアーも行い、いずれも大成功を収めた。

最近では、2012年のブレゲンツ・フェスティバルでのウィーン交響楽団との再共演、フェスティバル・ド・ラ・ロック・ダンテロンへの出演などがある。2010年にはアルゲリッチと共にショパンのアルバムがリリースされた。

カスプチェックは多くの賞を受賞しており、近年では、権威あるエルガー協会メダル(エルガー作品の解釈に対し)、「コリュパイオス・オブ・ポーリッシュ・ミュージック」賞(「ワルシャワの秋」音楽祭でのコンサートに対して)、ガゼタ・ヴィボルチャ紙の「マン・オブ・ザ・イヤー」聴衆賞を受賞した。



© Sophie Wright

牛田智大 (ピアノ) Tomoharu Ushida, Piano

1999年10月いわき市生まれ。父親の転勤に伴い、生後すぐ上海に移り6歳まで滞在。

幼少の頃より音楽に非凡な才能をみせ、3歳よりピアノを始める。5歳で第2回上海市琴童幼儿鋼琴電視大賽年中の部第1位受賞。8歳の時



© Ariga Terasawa
衣装企画: (株) オンワード樫山/縫製: グッドヒル(株)

から5年連続でショパン国際ピアノコンクール in ASIAで1位受賞。2012年(12歳)、第16回浜松国際ピアノアカデミー・コンクールにて最年少1位受賞。

2012年3月に日本人ピアニストとして最年少(12歳)でユニバーサルよりCDデビュー。その後、2013年「想い出」、「献呈～リスト&ショパン名曲集」、2014年7月2日「トロイメライ～ロマンティック・ピアノ名曲集」が発売され、

2015年「愛の喜び」(ユニバーサル ミュージック)に続き、2016年「展覧会の絵」はレコード芸術で特選盤に選ばれている。

各地でのリサイタルに加え、2014年にはウィーン・カンマー・オーケストラ、2015年にはミハイル・プレトニヨフ指揮ロシア・ナショナル管、2016年10月には小林研一郎指揮ハンガリー国立フィル日本公演のソリストを務める。2014年9月5日には初の海外公演を行い、台湾の高雄市交響楽団と共に演奏。

上海にて陳融樂(現在バンクーバー在住)、鄭曙星(上海音楽学院教授・ピアノ学科長)、日本にて金子勝子(昭和音楽大学・大学院教授)の各氏に師事。現在、モスクワ音楽院ジュニア・カレッジに在籍。ユーリ・スレサレフ(モスクワ音楽院教授)、ウラディミル・オフチニコフ(モスクワ音楽院付属中央音楽学校校長)他の各氏に師事。

ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団

Warsaw Philharmonic - The National Orchestra of Poland

ポーランドで最も代表的なオーケストラで、首都ワルシャワを本拠地として活動している。創立は1901年、フィルハーモニー・ホールの柿落としとともに、エミール・ムリナルスキの指揮、パデレフスキのピアノによって最初のコンサートが行われた。当時からオーケストラは高い評価を受け、グリーグ、クレンペラー、プロコフィエフ、ラフマニノフ、ラヴェル、R.シュトラウス、ストラヴィンスキ、アラウ、ホロヴィツ、ケンブ、ルービンシュタイン、サラサーテなど一流の音楽家たちが客演した。

第二次世界大戦中、ワルシャワ・フィルは本拠地のホールが完全に破壊され、71人いたメンバーのうち半数以上の39人が亡くなるという悲劇に見舞われ活動停止を余儀無くされた。

しかしこうした時代を乗り越え、1950年音楽監督兼首席指揮者にヴィトルド・ロヴィツキが就任、飛躍的な発展を遂げ、世界でも第一級のオーケストラに成長した。1955年には新しいフィルハーモニック・ホールが再建、ワルシャワ・フィルはポーランドの「国立オーケストラ」の称号を与えられた。これは、オーケストラがこれまでの功績を認められ、ポーランド最高のオーケストラという地位を与えられた事を表している。

その後、オーケストラはレパートリーを増やし、5年に一度開催される世界的コンクールである「ショパン国際ピアノ・コンクール」、「ワルシャワの秋」音楽祭はもちろんのこと、世界各地で120回以上のツアーを行っている。



2002年1月からはアントニ・ヴィットがワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団・合唱団の総監督兼芸術監督に就任。最近ではストラヴィンスキ、メニューイン、デュトワ、マズア、ブルゴス、ミケランジェリ、リヒテル、アルゲリッチ、ムター、五嶋みどりなどのアーティストが客演している。

レコーディングに関しても、ラジオ、テレビ放送のほか、国内外の映画音楽のためのレコーディングなどにも積極的に参加しており、グラミー賞(2008年/2009年)を受賞するなど多数の権威ある賞を受賞している。